

【緑地を楽しむ本】

『牧野富太郎 日本植物学の父』

清水洋美・文 汐文社



1ページ目の、なんともし嬉しそうな「おじさま」の写真に、「何がそんなに楽しいのかしら？」と、惹かれてしまいます。「蝶ネクタイに丸めがね、肩から大きなかばんをさげて、なんだかうれしそうなこの人

こそ、これから始まる物語の主人公、牧野富太郎です。・・(略)・・ きちんとした服装は植物への尊敬の気持ちのあらわれで、満面の笑顔は、大好きな植物に会えるのがうれしくてたまらないからです。」

江戸から明治にかわる時代に生まれ、学校制度上、13才で小学校の1年生となりますが、2年で中退。好きで好きでしょうがない植物の研究を続けていく姿に、牧野自身の、そして時代のエネルギーを感じます。

かつてに植物研究一筋の堅い研究者のイメージを持っていましたが、一般の人向けに開催した植物講習会で、楽しいエピソードなども紹介されていて、牧野図鑑を見る目も変わりました。

(遠藤)